

【ポスター発表】

障害のある家族を持つ学齢期のきょうだいへの支援に関する一考察

—KINDL®□を活用した QOL の測定から—

○ 社会福祉法人つるかわ学園 滝島 真優 (会員番号 008936)

キーワード：障害者家族・きょうだい・QOL

1. 研究目的

障害者の兄弟姉妹（以下、きょうだい）には、特有の悩みが存在し、健常者と比較して、高いストレスを持つことを指摘した研究が多くなされてきた（井上・井上・前垣，2014）。同時に、内面的な成長に良い影響をもたらされていることが明らかになっている。しかし、きょうだいが受ける影響の程度は、個人の属性や家庭環境などの要因により異なることから、研究を進めていく上で条件を統制することは決して容易ではない（柳澤，2007）。しかしながら、きょうだいが何らかの課題に直面しやすいことは明らかであることから、必要な支援の質の向上を検討することが求められており、特に子どもの健全な成長発達を支える上では、学齢期のきょうだいの健康状態を把握し、支援の必要性の根拠を示す必要があると考える。よって本研究では、学齢期のきょうだいを対象に QOL 尺度を活用し、きょうだいの QOL の傾向を把握し、必要な支援を検討することを目的とする。

2. 研究の視点および方法

きょうだいであることにより、特有な悩みを持つとともに内面的な成長につながる得がたい経験を持つという背景を捉え、きょうだいの社会的支援の必要性を検討する。

(1) 調査対象

2008 年度から 2015 年度に T 県のきょうだい会に参加した小学 1 年生から中学 3 年生（2016 年 3 月時点）47 名を対象とした。2015 年 12 月から 2016 年 2 月までに質問紙を郵送し、回収した。回収率は 66%であった。

(2) 調査方法

7 歳から 13 歳用の kid-KINDL®□（小学生版 QOL 尺度）と 14 歳から 16 歳用の kiddo-KINDL®□（中学生版 QOL 尺度）を用いて QOL を測定した。この尺度は、①身体的健康②精神的健康③自尊感情④家族⑤友だち⑥学校生活の 6 つの下位領域でとらえ、各領域 4 項目ずつ計 24 項目で構成されている。これらの項目について「この 1 週間…はありましたか」という質問形式に対して、頻度を 5 段階評定（ぜんぜんない/ほとんどない/ときどき/たいてい/いつも）で答え、6 領域の合計得点を QOL 得点とするものである。質問紙への回答はきょうだい自身の自己評価によるものとする。

3. 倫理的配慮

本研究は、日本社会福祉学会が定める「研究倫理指針」を遵守し、事前に本人、保護者に本調査の目的に関する説明を行った上で、返答については自由であること、プライバシーの保護に関する説明を行い、同意を得た上で実施した。

4. 研究結果

上記①から⑥の評価領域、そして⑦QOL総得点別に年齢別、性別で各平均値を求めた結果をTable 1に示す。また、併せて古荘他（2014）の調査結果から、障害のある家族を有しない小学生・中学生健康群の平均得点を（）書きで記す。

Table 1 QOL尺度の結果

年齢区分	小学生 (n=15)	①69.58 (77.23) ②72.5 (79.27) ③47.08 (53.65) ④69.66 (68.92) ⑤71.875 (69.8) ⑥62.5 (58.43) ⑦66.15 (67.88)
	中学生 (n=16)	①74.61 (65.92) ②79.30 (76.26) ③51.95 (35.42) ④73.05 (66.68) ⑤74.61 (71.03) ⑥62.89 (52.59) ⑦68.89 (61.32)
性別	男子 (n=8)	
	中学生男子 (n=5)	①85 (64.90) ②83.75 (76.44) ③66.25 (39.61) ④83.75 (65.83) ⑤75 (69.57) ⑥65 (52.49) ⑦75.54 (61.47)
	小学生男子 (n=3)	①85.42 (78.24) ②72.92 (79.94) ③43.75 (55.03) ④60.42 (67.47) ⑤75 (69.08) ⑥70.83 (58.32) ⑦68.06 (67.98)
	女子 (n=23)	
	中学生女子 (n=11)	①69.89 (66.93) ②77.27 (76.08) ③45.45 (31.25) ④68.18 (67.52) ⑤74.43 (72.49) ⑥61.93 (52.69) ⑦65.86 (61.16)
	小学生女子 (n=12)	①65.63 (76.21) ②72.40 (78.80) ③47.92 (52.25) ④72.18 (70.40) ⑤71.02 (70.53) ⑥60.23 (58.55) ⑦65.62 (67.78)

年齢区分で先行研究との差が認められた領域は、小学生女子の①身体的健康、②精神的健康、③自尊感情、⑦QOL総得点、小学生男子の②精神的健康、③自尊感情、④家族であった。特に小学生においては、③自尊感情に関する平均点が低く、②精神的健康に関する平均点が低いことと相関関係にあった。性差としては、女子の平均値が男子の平均値を下回っていることが多かった。

5. 考察

調査結果から、中学生よりも小学生の方が全体的な領域の平均値が低く、特に男女問わず精神的健康と自尊感情への影響が見られていることから、この点についてのケアの検討が必要であると考え。また、性差として男子に比べ、女子の方が全体的な平均値が低いことについては、女子の方が障害のある家族のケアをする存在となりやすいことが影響されていると考えられる。結果については、個別性が伴うものであり、個人の背景や環境要因等を踏まえて解釈する必要がある。また、今回対象としたのはきょうだい会という社会資源の一つに属する者であることから、親がきょうだいに対してのケアの必要性を感じていること、そして、きょうだい自身も障害のある家族を肯定的に捉えやすい環境にあることを背景として踏まえる必要がある。今回の調査を契機とし、きょうだい特有の悩みや得がたい経験を踏まえ、きょうだい支援の必要性の根拠を明らかにするために、学齢期のきょうだいの健康状態を把握する手段の一つとして、本 QOL 尺度活用の可能性を検討したい。

参考文献

- 古荘純一・柴田玲子・根元芳子・松寄くみ子（2014）子どもの QOL 尺度その理解と活用．診断と治療社
井上菜穂・井上雅彦・前垣義弘（2014）障害児のきょうだいの心理的支援プログラムの効果．米子医誌
柳澤亜希子（2007）障害児・者のきょうだいが抱える諸問題と支援のあり方．特殊教育学研究